

//REPORT//

令和 4 年度ユネスコスクールオンライン意見交換会

9/27(火)開催 第 1 回 ユネスコスクール実践報告①

「SDGs 活動、ESD の根底を支える：子どもと世界を結びつける授業」



ユネスコスクール事務局では、令和 2(2020)年度より、ユネスコスクールオンライン意見交換会を 1～2 か月に 1 回のペースで実施しています。今年度第 1 回目は「SDGs 活動、ESD の根底を支える：子どもと世界を結びつける授業」と題して、15 名の参加者と対話の場をもちました。

■ プログラム

開催日時:2022 年 9 月 27 日(火) 16:00～17:00

時間	内容
16:00	オープニング 趣旨説明
16:05	事例紹介 横浜シュタイナー学園 佐藤 雅史 氏 横山 義宏 氏
16:20	コメント 玉川大学教育学部 小林 亮 氏
16:25	グループディスカッション 事例紹介を聞き感じたこと、各校の取り組みをお互いに共有します。
16:45	振り返り グループ毎に、ディスカッションで話したことを発表します。 (良かった点、学んだこと、今後活かしたいこと、改善点、メリット・デメリット等)
17:00	クロージング

■ 事例紹介

横浜シュタイナー学園 佐藤雅史先生、横山義宏先生より実践報告をいただきました。

以下、ご発表の概要です。

【佐藤雅史先生】

横浜シュタイナー学園は 2005 年に 1 年生 1 クラスで市民が作る学校として開校し、NPO が運営しています。2011 年の 1 月にユネスコスクールに加盟し、2016 年には[サステイナブルスクール](#)に採択されました。現在児童生徒 132 名、96 家庭が学園に関わっており、第一校舎の霧が丘校舎には 1 年生から 5 年生が、第一校舎から徒歩 7 分ほどにある第二校舎、十日市場校舎には 6 年生から 9 年生までの子どもたちが通っています。

私たちが教室の中でどのようなことを大切にしているかは、ユネスコスクール公式ウェブサイトの[本学園のページ](#)でご案内しています。

「ここ数年、教育現場への ITC 機器の導入が一気に加速してきていますが、私たちは一貫して、言葉と感覚を通じて教員と子どもたちがダイナミックに関わり合う教育スタイルを堅持しています。

小中学生、とくに低学年の子どもたちの成長段階では、諸感覚の育成と統合、想像力(イメージ想起力)とそれに結びついて発展する豊かな情操、それらの活動から結果的に引き出されていく生きた倫理感覚等々を豊かに育てていくことが重要です。このような、人としての根幹をこの時代に健全に築くことが、いま世界が問いかけている持続可能性へのもっとも確実な答えだと私たちは考えています。

そこで私たちは、SDGs や ESD for 2030 への取り組みを(世界の全体性を人間に取り戻す教育アプローチ)と捉えなおし、学びを芸術的に編成することでそれを実現しています。」

このようなことを、かながわユネスコスクールネットワーク(旧称:神奈川県ユネスコスクール連絡協議会)で共有し、ユネスコスクール神奈川県大会が開催された際に、[神奈川宣言](#)を採択しました。ここでは、「ユネスコスクールの使命は、豊かな教育文化を通じて人々に地球市民としての意識を育て、持続可能な社会をつくること」であると謳っています。横浜には私たちのようなオリジナルな教育を行っている学校、あるいはインターナショナル学校、民族学校など色んなスタイルの学校がありますが、このネットワークを通じてそういう学校が出会いながら互いに刺激し合って豊かな教育文化を築いてくためのプラットフォームを作りましょう、という宣言です。その中心には子どもを置かなくてはなりません。そしてそのためには、現場の教職員・サポーターの皆さんの自主性・自立性がとても重要です。このようなことを皆さんの地域でも参考にいただければと思います、紹介いたしました。

【横山義宏先生】

持続可能な社会をつくるために私たちが考えていることは、まず子どもたちがしっかり社会の中に根づいて、自分たちの周りの社会が良いものだな、温かいものだな、自分たちがこの中で生きていて幸せだな、ということを感じてもらいたいということです。それを感じたならば、これからこの社会をもっと良くしていこう、持続可能にしていきたい、という気持ちが起きてくるのではないかと考えて活動を行っています。

これから具体的に行うことは、低学年、特に 1 年生、2 年生の子どもに対して行っていることですが、毎朝授業を行うときに、子どもたちと一緒に歌を歌います。歌を歌い、歌と共に身体を動かすことが未

来の社会を築いていくことにつながっていくと思ってやっています。まず歌を歌いますので聴いてください。

(歌)

♪秋の空を トンボがゆくよ 金の風に飛び乗って
稲やかかしにごあいさつ 秋の空を トンボがゆくよ♪

9月、この1か月間、毎朝この歌を歌っています。歌を聴いていただいて、風景が頭に浮かんだでしょうか。今度は動きを入れてやってみます。(歌・動き)

私は今トンボになりましたが、実際にやるときは教室の中で机を端に寄せてスペースを作り、子どもたちを3つのグループに分けて行います。1つのグループはトンボを、もう1つのグループはひざまずいて稲になり、風に揺れます。3番目のグループはかかしになります。最初に稲になるグループとかかしになるグループが準備し、それからトンボのグループが、今私が歌った歌を歌いながらかかしや稲の周りを飛び回る、ということを行います。

1年生、2年生の子どもたちは非常に想像力が豊かです。あたかも教室が田んぼに様変わりするんですね。子どもはトンボになり、稲になり、かかしになる、そういったことを毎朝毎朝行っています。授業が始まっての冒頭の何分間かをこういう時間にあてています。この歌は私が子どもたちの顔を思い浮かべながら、今は9月で稲がきれいですので、稲、トンボとかかしを入れて作ったのですが、その季節に合わせ、例えば6月だったら梅雨の歌を子どもたちと歌います。

このような形で、子どもたちと子どもたちを取り巻く自然界をしっかりと結びつけること、そして子どもたちが「ああ、良いなあ」と思ってくれて未来を築いていくことにつなげていけたらと良いな、と思って活動しています。

実際の私の体験ですが、こういった歌を朝やっていて、散歩に行く時があります。散歩に行く時に子どもたちがこの歌を口ずさむことがあります。それを聞くと、結びついてくれているんだな、と思い、喜びに浸ることができます。

このような地道な活動を、持続可能な社会をつくるための人づくりということで毎日毎日やっています。今日はこのような報告をさせていただきました。ありがとうございました。

■ コメント

ASPUnivNet 加盟大学でユネスコスクールを支援する立場であると共に、大学の教育学部自体もユネスコスクールに加盟をしている玉川大学の小林亮教授より、ご発表を受けて下記のコメントをいただきました。

- ・ これまでユネスコスクールオンライン意見交換会に全回参加していますが、プレゼンで歌を歌ってくださったのは初めてです。イメージーションの豊かな歌ですね。秋の情景が浮かんできて幸せな気持ちになりました。横山先生のクラスの児童になりたいと思いました。
- ・ シュタイナー教育のすばらしさ、すなわちユネスコスクールが求めている非常に大事な教育的

要素を、すべて兼ね備えているなということを改めて痛感しました。

- ・ 特に 3 つ大事なポイントがあります。シュタイナー教育の大きな理念は、世界の全体性を人間に取り戻す教育アプローチである、という指摘がありましたが、これはユネスコスクールの在り方を考えるうえで非常に大事だと思いました。元々シュタイナー教育というのはルドルフ・シュタイナーというドイツの哲学者が開発したアントロポゾフィー（人智学）に基づいていますが、非常に全人的なアプローチ、世界の全体性と同時に人間の全体性を回復させる試みだと思えます。そこで倫理感覚とか共感性とか、ユネスコスクールで重んじられている社会情動的スキルを効果的に児童生徒たちから引き出していることがよくわかりました。現在の世界がまさに一番求めているものの一つではないかと感じました。
- ・ 2 点目として、一人ひとりの子どもが大事にされていることを強く感じました。能力的にも性格的にも、また社会的、家庭的背景にも様々な子どもがいる中で、一人ひとりの子どもが全員生き生きとして幸せに生きていれば良いのですが、現実には難しいという現状があります。例えば日本の中でも不登校児童生徒数が 20 万を超えている、というような深刻な現実もありますが、シュタイナー学園では言葉だけではなく実際に一人ひとりの子どもを大事にしています。性格や能力の個人差をそのまま受け止め、その個人の持っている良さを最大限に引き出そうとしているアプローチが顕著に見て取れます。
- ・ 3 点目は、教育の根本的なとらえ直しというのが世界的にも、ユネスコスクールの文脈でも求められており、ユネスコも昨年に Reimagining our futures together、教育の未来プロジェクトで新しい[グローバルレポート](#)を出していますが、教育の在り方を根本的に見直していこうというアプローチが推進されています。まさにそれを先取りし、先生の在り方と児童生徒との関係性をもう一度根本から見直すという貴重なきっかけを与えてくれていると感じました。例えば先ほど横山先生が歌と身体表現を披露してくれましたが、これまでの方式で先生とか教育者というイメージの枠を超えていますね。親しみを感じましたし、まず何よりも一人の人間としてこういう人に接近してみたいなという気持ちを、子どもたちは敏感ですからなおさら強く持つだろうと思います。普通の学校の教室で考えられているような教師と児童生徒の関係性とは違った教育の在り方、関係性の在り方というのを提示しているように感じました。
- ・ シュタイナー教育で進められている教育の姿というのは、ユネスコスクール全体にとって大変参考になります。私たちユネスコスクール関係者は、シュタイナー教育からもっと様々なものが学び取れるのではないかとことを強く感じました。
- ・ シュタイナー学校同士のネットワークの中で学び合いや研修がされていると思いますが、ぜひ今後もこういう場で積極的に発信していただき、シュタイナー教育の持っている、特に今の時代状況が必要としているような教育のポテンシャル、潜在力をもっと普遍的な形で色々な関係の方々に広めていただければ、全員にとってプラスになる、全員が幸せになっていく大きなきっかけづくりになるのではないかと感じました。素晴らしいプレゼンテーションをありがとうございました。

■ ディスカッション

横浜シュタイナー学園のご発表と小林教授からのコメントを受け、参加者同士の対話の場が持たれました。以下、話し合われた主な内容です。

- 小規模校の良さあるいは強みを生かした形で ESD、SDGs について取り組んでいる実践の報告があった。子どもたちが町の人口の減少や自然保護にとっても関心があるということで、そこから子どもたちが子どもたちなりに街づくりにどう参画していくのか、学校として取り組んでいくことについての話があった。低学年だからできないとかは考えず、様々な学年の子どもたち同士で協同しながら身の回りのことはもちろん、世界も意識したような活動を今後展開していきたいという話があった。
- ホールスクールで取り組むにはどうしたら良いのか、と悩む話があり、すべての学校の共通の課題だが、中学・高校で教科の先生同士の話は多いものの、教科を横断した取り組みは難しい、また進学等に係る業務があるので、なかなか ESD の観点で授業づくりを行うことに難しさを感じているという話があった。一方で、クラブ・部活動で ESD や SDGs を扱っているところもあるので、それを活かしながら少しずつ変化を全体にもっていけたら良いのではないか、という意見があった。
- 前に勤務していた学校を振り返ると、学校として低学年の頃に原体験を大切にしていこう、ということをとても考えていた。シュタイナー学園さんの発表から、大学の頃、シュタイナー教育の本をしっかりと読むよう先生に言われ、何冊か読んだのを思い出したが、哲学的な部分や本当に大切な部分は十分に理解できていないところがあるのでどのようにとらえて良いかわからない面もあるが、間違いなく共通しているのは、子どもが社会に根づいていくということや、幸福感を大切にしていこう、幸福感は人によってそれぞれ違うこと、それぞれを認められる人を育成していくということが、社会が持続していくことにつながるのではないか、ということだ。とても勉強になった。
- 自然を体験するプログラムがあり、生徒がその中で自然はきれいだな、と感じ、そこから SDGs 並びに持続可能な社会に対しての意識を高めていくことを実践している学校の話、日本で初めて和歌を伝承した土地であるということから、伝統を守るための色々な体験をする学校の話、様々なボランティア活動、NPO 団体や企業と連携した活動を通して生徒たちが色々なことを感じ、その感じ方はそれぞれ違うが、その価値観の違いや差異をプラスにとらえていくのも有効だ、というシュタイナー教育の在り方の話があった。
- 現在ウクライナで戦争が起きていることや様々な国際的な紛争が起きているのも価値観の違いから起きているが、大きな視点でそのような戦争を止めるためにはどういう教育をしたら良いだろうか、という投げかけもあった。
- 持続可能な社会をつくることについて、大人がそういうことを意識していることで子どもたちに伝わっていくことがある。ユネスコスクールだから持続可能な社会がどうのこうのと直接的に言うのではなく、大人がそういうことに関わっていくことで自然に伝わっていくような教育が大事だと学び、それを実践している。

- 今回の歌を歌っていただいたワークショップについて、1 か月続けて行う、毎日同じことを続けていくことがとても大事、またその子によって感じ方が違うので、それを大人が感じ取り、同じように呼吸をしていく、一緒に過ごしていくことが大事であるという話があった。
- このような教育を知らない保育士もいる。一人でも多くの保護者に伝え、一人でも多くの幸せな子どもたちを育てていきたいという気持ちでシュタイナー教育のような教育を取り入れた保育園を立ち上げた。まだ模索している段階なので、様々な機関の方にたくさんのアドバイスをいただきながら、すべての子どもたちが幸せに育っていけば良いなと思っている。
- シュタイナー学園のカリキュラムについて、10 歳くらいを境にして変わっていく、10 歳以前は感覚的なこと、空間的なことを重視、10 歳を超えたあたりから知的なことを重視しながら子どもたちを育てている、という説明があった。普通のカリキュラムに加えて体験的なこと、手足を使うことを重視したものを取り入れている。最終的にそのようなことを積み上げていき、9 年生で卒業論文を仕上げるという話だった。
- 京都では京田辺シュタイナー学校があるので交流を検討していたが、コロナ等でできなかったため、今後 ASPUnivNet を介して京都を中心とした学校間の交流を検討してはどうかという話があった。また、近畿はさらに拡大すると大阪を中心としたネットワークがあるので、ネットワーク同士のつながりで協働することもできるのでは、という示唆があった。

【ユネスコ本部 斎藤珠里氏からのコメント】

当日、ACCU(ユネスコスクール事務局)にご来訪中だった同氏が急遽ご参加くださり、ASPnet 国際コーディネーターのお立場からコメントをいただきました。

- 普段現場で直接子どもたちと向き合っている先生方から、教育現場でどのようなことを実践しているか、しかも持続可能性という、少々かたい、説明しにくいことについて先生方がそれぞれどういう形で理解し、子どもたちの年齢に応じて伝えていく工夫を模索しているか、ユネスコスクールが推奨している画期的・革新的な取り組みをされていることに非常に感動した。
- 日本は学校だけに頼らず、地域社会、コミュニティの中で世代を超えて連携しながらどのように協力し合うか、情報交換するか、歴史の中で培われてきた素晴らしい伝統・価値観がある。学校の教育現場でそれを子どもたちに感じ取ってもらい、子どもたちを通じて親や地域社会とも連携していくということを、先生方が考えて模索されているという点でも素晴らしい取り組みだと思った。
- 最近ユネスコの中ではアート・エデュケーションがテーマになっており、文化・芸術をもっと教育に取り込んでいかなければならないのではないか、と言われている。ユネスコの中では教育局と文化局とに別れているが、違う分野に携わるスペシャリストたちが意見交換を行ったり、歩み寄って共に何か解決するために協力したりすることが、持続可能な社会の一步になるのではないか。皆さんの話を聞き、持続可能な社会をつくるためには小さい頃の原体験が大事であり、その原体験の中で喜びを味わうこと、豊かな心、感性を磨くために、言葉で言うのではなく、歌ったり、踊ったり、演技をしたり、身体表現を通じて感じることも、特に低学年の子ど

もたちにとって大切だと感じた。

- 創造性や芸術性というところまで持っていくことで、世の中を変えるという「知」の部分に変容させていく、トランスフォームしていく作業も必要である。世界が変わっている、紛争も起きている、平和というものは難しい、といった現実と直面した時に、その温かい心をもってどう社会を変えていくのかという、ホットな頭からクールな頭に切り替えていくトランスフォーマティブ・エデュケーションが大事だと思う。これが今後の一番の課題であると見ている。
- 「親切」という言葉は「親を切る」と書く。親に愛され、先生に愛され、地域に愛される子どもが独り立ちし、一人となって外に出ていく。日本は内向き社会と言われているが、連帯感があり、創造性をもって子どもに接している日本の教育は素晴らしいと思う。その中で、子どもたちが社会に出ていき、世界に出ていったときに自分はどのような役割を果たせるのかというところまで考えていけるような子どもを育てることが、これからの日本の教育に求められる。自分が幸せだから良い、のではなく、自分が幸せになったからこそほかの人も幸せにしてあげたい。ほかの人を幸せにできれば社会も変わっていく。日本の社会が変わっていけば、良い発信源となって世界をも変えていく力になりうる。一人の子どもが、自分が大人になったら社会を、世界を変えていくために自分は今何ができるか、そこまで考えられる子どもを育てるといふ、非常に長期展望に立った教育が求められていくのではないかと深く考えさせられた。
- ユネスコ本部としてもみなさんの実践していることをほかの世界のユネスコスクールにも浸透させられるように、皆さんの意見を吸い上げ、それを還元させていくようなより良い情報交換のプラットフォームをつくらなければならないと考えさせられた。



[オンライン意見交換会の様子]

※オンライン意見交換会に関し、お申込み方法などの詳細は、[ユネスコスクール公式ウェブサイト](#)内「最新情報」、[ユネスコスクール公式 Facebook](#)に掲載中です。ぜひご参加ください！